

# 2017 年度輔仁大学日本語文学科・台湾日本語文学会国際シンポジウム —「社会的役割を果たす日本語文学研究の推進」— プログラム(案)

日 時：2017 年 12 月 16 日(土曜日) 場 所：輔仁大学国壘楼 2 階国際会議ホール

08:30~08:50	受 付
08:50~09:10	<b>開 会 式</b> (国壘楼 2 階 MD227 国際会議ホール) 頼 振南 (輔仁大学外国語学部長・台湾日本語文学会理事長) 西海 茂洋 (公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所副代表) 奥村 訓代 (日本比較文化学会会長・日本高知大学教授)
09:10~10:00	<b>基 調 講 演 1</b> (国壘楼 2 階 MD227 国際会議ホール) 司 会：落合 由治 (淡江大学教授) 講 師：吉岡 洋 (日本京都大学教授) トピック：「役立つ」とはいかなることか？ —芸術研究の社会的役割をめぐって—
10:00~10:10	ティ ー ・ ブ レ イ ク
10:10~11:00	<b>基 調 講 演 2</b> (国壘楼 2 階 MD227 国際会議ホール) 司 会：曾 秋桂 (台湾日語教育学会理事長・淡江大学日本語学科主任) 講 師：藤濤 文子 (日本神戸大学教授) トピック：グローバル時代における翻訳の役割と再コンテキスト化
11:00~11:50	<b>基 調 講 演 3</b> (国壘楼 2 階 MD227 国際会議ホール) 司 会：陳 明姿 (台湾大学教授) 講 師：横溝 博 (日本東北大学准教授) トピック：日本文学という新しい試み—日本研究の理想と課題
11:50~12:20	台湾日本語文学会 / 昭和文学会 (日本) 姉妹学会締結式 台湾日本語文学会 会員大会
12:20~13:20	昼 食

## 午後の部

		第一会場	第二会場(B)	第三会場	第四会場
	13:20   13:25	国壘楼 MD215 教室	国壘楼 MD214 教室	国壘楼 MD213 教室	国壘楼 MD212 教室
		第一セッション	第二セッション	第三セッション	第四セッション
		座 長：中村 祥子 (輔仁大学副教授)	座 長：張 蓉蓓 (輔仁大学助理教授)	座 長：黄 英哲 (台中科技大学副教授)	座 長：林 慧君 (台湾大学教授)
13:20   14:40	13:25   13:45	発表者：齋藤 正志 (中國文化大学副教授)  『大和物語』第 27 段にお ける「社会との関係」 —社会的役割を持つ日本 古典文学研究—	発表者：沈 美雪 (中国語文化大学副教授)  台湾における日本ロボッ トアニメの受容と現在 —『重甲機神 Baryon』か ら見る台湾劇場版アニメ 制作の将来性—	発表者：工藤 節子 (東海大学助理教授)  台日プロジェクト型交流 におけるリーダーの経験 と成長	発表者：林 寄雯 (淡江大学副教授)  否定表現の中国語訳に関 する一考察
	13:45   14:05	発表者：簡 中昊 (屏東大学助理教授)  文学における台湾野球の 八百長問題：日本と台湾の テキストを中心に	発表者：横路 明夫 (輔仁大学副教授)  ロボットと人間の間で —『攻殻機動隊』の「タチ コマ」を論じる—	発表者：朴 孝庚 (韓国漢陽サイバー大学 助教授) 韓国日本語教育における サイバー大学の現状と課 題—遠隔作文授業を中心 に—	発表者：吳 如惠 (銘傳大学副教授)  日本語学習者の生教材活 用による聴解練習におけ る字幕種類の選択

14:05   14:25			発表者：金 孝卿、 トンプソン 美恵子、 羅 曉勤、張 瑜珊 (日本大阪大学准教授、日 本早稲田大学准教授、銘傳 大学副教授、東海大学助理 教授)	発表者：姜 美善 ( 韓国漢陽女子大学講師 )  主体的学びを支援するた めの実践を考える
14:25   14:40	質疑応答	質疑応答	質疑応答	質疑応答

14:40~15:10	ティー・ブレイク	ポスター発表 二回目
-------------	----------	------------

	15:10   15:15	第一会場	第二会場(B)	第三会場	第四会場
		国璽楼 MD215 教室 第五セッション	国璽楼 MD214 教室 第六セッション	国璽楼 MD213 教室 第七セッション	国璽楼 MD212 教室 第八セッション
		座 長：范 淑文 ( 台湾大学教授 )	座 長：横路 啓子 ( 輔仁大学教授 )	座 長：楊 錦昌 ( 輔仁大学教授 )	座長：蘇 文郎 ( 政治大学教授 )
	15:15   15:35	発表者：山下 文 ( 淡江大学助理教授 )  現代日本文化に見る僧正 遍昭 —小学校検定教科書・学 習参考書・マンガを通して—	発表者：武田 珂代子 ( 日本立教大学教授 )  機械翻訳・自動通訳の開発 と翻訳通訳教育	発表者：林 淑璋 ( 元智大学助理教授 )  日本語昔話・絵本を用いた 多読実践による初級日本 語文法の学習と使用—接 続助詞の「と」を中心に—	発表者：高井 岩生 (日本九州大学専門研究員)  名詞に対する意味的制約 と動詞の特性
15:10   16:30	15:35   15:55	発表者：胡 文海 ( 日本関西大学博士後期 課程 )  芭蕉「蚤、虱」像の変遷	発表者：金 孝順 ( 韓国高麗大学副教授 )  1920-30 年代における「人 造人間」の植民地的受容に 関する研究	発表者：鄭 家瑜 ( 政治大学副教授 )  台湾社会との連携を目指 す「日本古典文学」の授 業の試み—政治大学日本 語文学科の「日本名著選 読」授業の実践報告	発表者：住田 哲郎 ( 日本京都精華大学講師 )  アイロニーが引き起こす ラレル文
	15:55   16:15	発表者：劉 怡臻 ( 日本明治大学博士後期 課程 )  台湾における啄木受容史 の一面—銀鈴会を例に		発表者：陳 文瑤 ( 大葉大学副教授 )  アクティブ・ラーニングを 取り入れた「日本文学史」 の授業	発表者：龔 柏榮 ( 日本名古屋大学博士後 期課程 )  現代日本語における可能 性を表す表現の研究 —「ないとは/とも限らな い」の使用文脈に関する一 考察—
	16:15   16:30	質疑応答	質疑応答	質疑応答	質疑応答

16:30~16:40	ティー・ブレイク
-------------	----------

		第一会場	第二会場(B)	第三会場	第四会場
16:40   16:45		国璽楼 MD215 教室	国璽楼 MD214 教室	国璽楼 MD213 教室	国璽楼 MD212 教室
		第九セッション	第十セッション	第十一セッション	第十二セッション
		座長：林 雪星 (東呉大学教授)	座長：黄 翠娥 (輔仁大学教授)	座長：頼 錦雀 (東呉大学教授)	座長：王 佑心 (銘伝大学副教授)
16:40   17:35	16:45   17:05	発表者：廖 秀娟 (元智大学副教授)  太宰治「律子と貞子」論—雑誌『若草』を手がかりとして—	発表者：小針 浩樹 (輔仁大学副教授)  コミュニケーションの諸形態とロボットの可能性—ロボットは自分の声を聴いているか—	発表者：奥村 訓代 (日本高知大学教授)  「やさしい日本語」効果について	発表者：梶原 雄 (日本同志社大学講師)  外国人観光客から見た天ヶ瀬温泉の魅力と課題—韓国のブログをもとに—
	17:05   17:25	発表者：蔡 佩青 (日本静岡英和学院大学准教授)  春樹文学の古典摂取と消化—『独立器官』論—	発表者：陳 國偉 (中興大学副教授)  モンスターの進撃：機械の身体・人種の突然変異と台湾のSF ミステリー小説	発表者：公文 素子 (日本高知大学講師)  日本人と外国人の「緊急地震速報」の認知度に関する考察—	発表者：劉 玲芳 (日本大阪大学博士後期課程)  日本対中国の貿易事情と中国人の身装文化—1900-10年代を中心に—
	17:25   17:35	質疑応答	質疑応答	質疑応答	質疑応答

17:40~17:50 **閉会式** (国璽楼2階 MD227 国際会議ホール)  
横路 啓子 (輔仁大学日本語文学科主任)

17:50~20:00 **懇親会** (麗京棧酒店 Hotel Intrendy)

**ポスター発表 一回目 11:50~12:20 二回目 14:40~15:10 (国璽楼2階広場)**

- 発表者①**：黄 馨儀 (中国文化大学助理教授)  
テーマ：「テレビドラマと日本社会」日本語学科と社会とのつながりを考えた授業の実践報告
- 発表者②**：藍 語嫣 (銘伝大学大学院生)  
テーマ：アニメを学習題材にした聴解学習ストラテジーの基礎調査—応用日本語学科学習者を中心に—
- 発表者③**：林 昌勇、呂 惠莉 (銘伝大学大学院生、副教授)  
テーマ：明治文学作品における一人称の使用実態—『坊っちゃん』と『雁』を中心に—
- 発表者④**：徐 孟鈴 (銘伝大学副教授)  
テーマ：スピーチを教室活動として指導する試み—自国文化を意識させるテーマで
- 発表者⑤**：董 航 (日本お茶の水女子大学博士後期課程)  
テーマ：中江藤樹の女子教育思想—「翁問答」と「鑑草」との一貫性を中心に—
- 発表者⑥**：陳 陸琴 (日本九州大学大学院生)  
テーマ：「P 是 P」の意味と構造—「P ことは P」との対照研究
- 発表者⑦**：翟 勇 (日本静岡大学講師)  
テーマ：英語母語話者日本語学習者の日本語空主語文処理

主催 台湾日本語学会・輔仁大学外国語学部・輔仁大学日本語文学科  
共催 日本京都大学こころの未来研究センター  
協賛 科技部・教育部・輔仁大学研究発展処・独立行政法人国際交流基金 (The Japan Foundation)・韓国日本語学会・日本比較文化学会・致良出版社・大新書局・尚昂文化事業國際有限公司  
後援 公益財団法人日本台湾交流協会

基調講演：50分 論文発表：20分・質疑応答：5分